

組立説明書

電動アシスト自転車

品番 BE-ELLS032
BE-ELLU432
BE-ELLU632
BE-ELST633
※特注車含む



組み立てをされる方へ

- 組立説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に組み立ててください。特に「安全上のご注意」は、組み立て前に必ずお読みください。組立説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しないで組み立てされたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その組み立てが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 自転車安全整備士、自転車技士(自転車組立整備士)、もしくは同等の技術を有する方が組み立て・点検・整備を行ってください。
- 工場より出荷された自転車は社内規格によって正常かつ確実な組み立てを行っており、梱包も損傷することの無いよう配慮しております。しかし、輸送中の振動・衝撃により金属部分の接触面などにナジミを生じ、緩むことも考えられます。車輪の振れ、各部締め付けねじ類を点検・調整の上、完全な商品としてお客様にご販売くださるようお願いいたします。
- 前後タイヤの空気圧の点検をお願いします。
- 点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。
- 次回の点検からも取扱説明書の裏表紙にある点検・整備チェックリストをもとに確認してください。
- メンテナンスする際にも組立説明書が必要になります。ご販売店様で保管することをおすすめします。

※説明で、図などが多少異なりますが取り扱いおよび組み立て方はほぼ同じです。また、上記記載品番を基本とする特注車(部品の一部が異なる機種)も組み立て方はすべて共通です。

お願い

組み立てに伴う専用工具「ペダルレンチ」と「六角棒レンチ」は担当の支店 / 代理店にて斡旋しております。



お知らせ

本紙には納品時に組み付け調整済の部品についても、再調整の場合の参考として、組み付け・調整方法を載せてあります。

標準締めトルク一覧表

M3	(0.8~1.3)N・m	{(8~13)kgf・cm}
M5	(3~4.5)N・m	{(30~45)kgf・cm}
M6	(6.5~9.5)N・m	{(65~95)kgf・cm}

※本文中に締めトルクの記載が無いねじ締結部は、上の表に従って組み立てを行ってください。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

安全上のご注意

警告

けがなどを防ぐために

- **禁止** ■ハンドルステムおよびシートポストは、はめ合わせ限界標識以上引き上げない(ハンドルステムおよびシートポストの折れにより、転倒によるけがのおそれ)
- ハンドルステムのハイトストッパーを外して、ハンドルステムを一番下まで下げない



(固定が不完全になる場合があり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

- **必ず守る** ■ **ロックナットは確実に締め付ける**(ブレーキの調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれ)

- **ブレーキグリスの補給には、必ずローラーブレーキ専用グリス(NBP002)を使用する**(制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ) ⇒補給する目安は1回約5gです。

- **チェーン調整時、適正寸法を守る**(チェーンが外れ、転倒によるけがのおそれ)

注意

けがなどを防ぐために

- **必ず守る** ■ **ヒゲ状のバリを取り除く**(バリによるけがのおそれ) ⇒ペダルをクランクに締め付けた際に、ヒゲ状のバリが発生することがあります。バリが残らないように、工具(ラジオペンチ・ニッパーなど)で取り除いてください。このとき、けがをしないよう注意してください。

- **インナーワイヤの先端には、必ずインナーワイヤキャップを組み付ける**(組み付けないとけがのおそれ)

- **六角棒レンチは六角穴付きボルトの奥まで確実に差し込み、締め付けを行う**(はずれてけがをするおそれ)

故障などを防ぐために

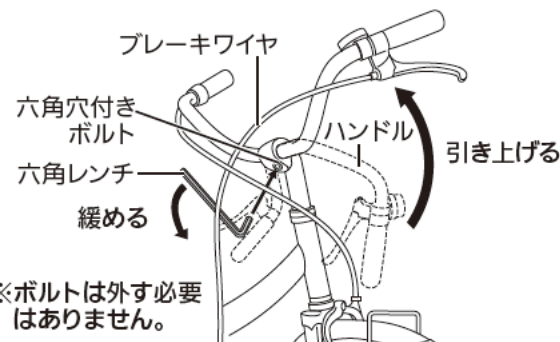
ご注意

- 前ハブキャップを組み付ける際、ハンマーなどで強く叩き過ぎると、スピードセンサー(装着車のみ)が故障するおそれがあります。



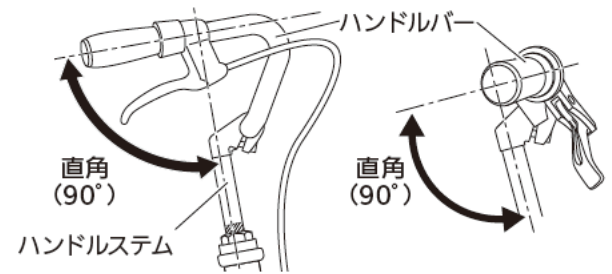
■ハンドルバーの調整と固定

- ①六角棒レンチ(6 mm)で六角穴付きボルトを緩め、ハンドルバーを引き上げます。

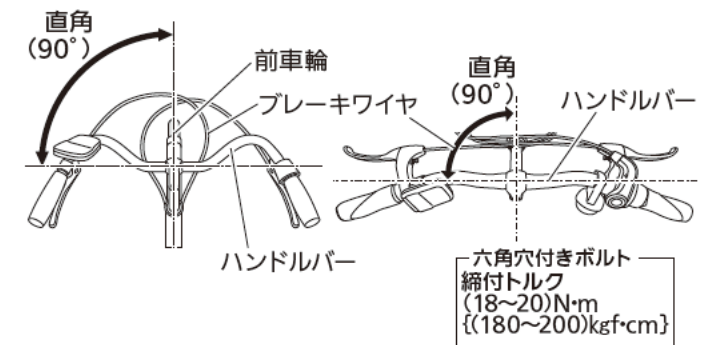


- ②ハンドルバーとハンドルステムの角度がほぼ直角になるように調整し、はめ合わせ限界標識がみえなくなるまで挿入して組み付けます。

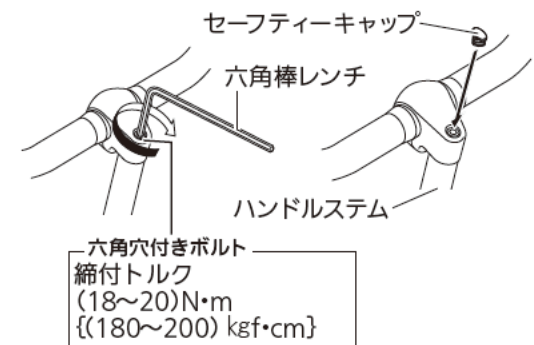
<中上りの場合> <オールランダーの場合>



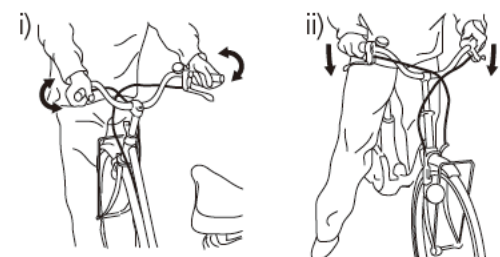
- ③ハンドルバーと前車輪が直角になるように調整します。また、ブレーキワイヤが図のような状態になっていることを確認してください。



- ④六角棒レンチ(6 mm)で六角穴付きボルトを締め付けて、セーフティーキャップを取り付けます。



- 締め付け後、以下の i)、ii) で固定が十分か確認します。
- i) 前車輪を両足ではさみ、両手で握り部を強く左右に回して150 N{15 kgf}、ハンドルバーが前車輪に対して回転しないことを確認してください。
- ii) 自転車にまたがり、ハンドルバー握り部を持ち、内側に絞り込むように体重をかけ左右共220 N{22 kgf}、ハンドルバーが回転しないことを確認してください。

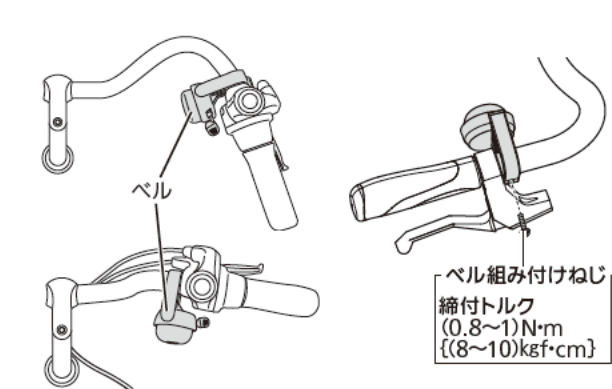


- iii) ハンドルの調整、固定後ブレーキレバーを握ってブレーキが利くことを確認してください。

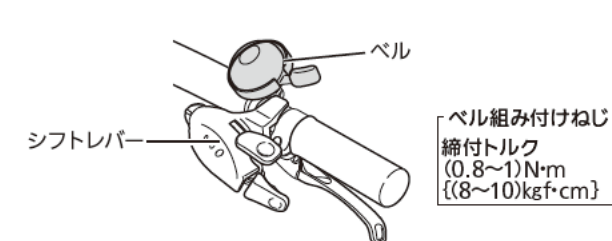
■ベルの位置調整

- ①図のような位置にベルを調整してください。

<インサイドベルの場合>



<スライド式ベルの場合>



■ブレーキの調整

●ブレーキレバーの開き調整

ブレーキレバーの開き調整は、ブレーキレバーを開放した状態で、レバー開き調整ねじを回して、操作しやすい位置(ブレーキレバーの引き始めに指の第一関節から第二関節がかかる位置が推奨)に調整する。

●ブレーキレバーを強く握って、レバーとグリップが付く場合は遊びを少なくして再調整してください。



お知らせ ●レバー開き調整ねじの無い機種もあります。

●ブレーキレバーの引きしろ調整

ブレーキレバーの遊びが約 15 mm になるよう、前後ブレーキの引きしろをワイヤ調整ねじで調整する。



お願い

●上記の調整範囲は目安です。調整後は必ずブレーキテストをしてください。
●前後車輪の回転が重くないことを確認してください。

●前キャリパーブレーキの調整

①アーチを握った状態で、ワイヤをワイヤ固定ボルトに固定してください。

ワイヤ固定ボルト
締付トルク
(6.5~8)N・m
{(65~80)kgf・cm}

②ロックナットを緩める。

ロックナット
締付トルク
(1~2)N・m
{(10~20)kgf・cm}

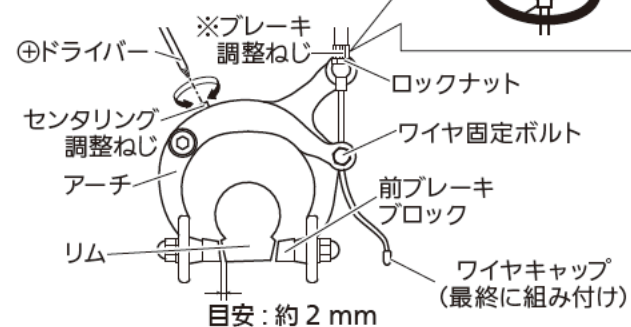
③ブレーキ調整ねじを回す。

④センタリング調整ねじで、リムと前ブレーキブロックの隙間が左右均等になるように調整する。

⑤走行してブレーキの利きを確認する。

締める (ブレーキの遊びが多くなる)
緩める (ブレーキの遊びが少なくなる)

⑥ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。

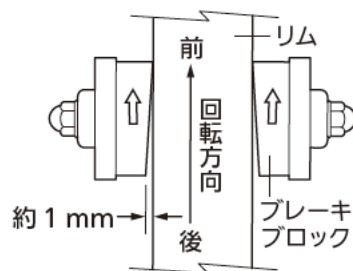


●前後ブレーキのブレーキワイヤ末端処理

○安全のためワイヤ末端にはワイヤキャップをカシメてください。

●前ブレーキブロックについて

○ブレーキブロックに方向性があります。ブレーキを上側から見て、矢印を進行方向に合わせてください。ブレーキブロックがテーパ状になっており、後側に約 1 mm の隙間ができ、異音防止の効果があります。



●後ブレーキの調整

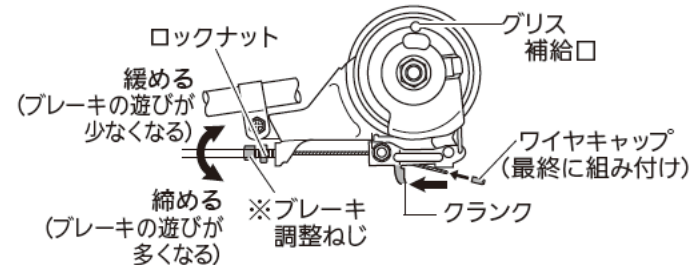
①ブレーキ調整ねじのロックナットを緩める。

②クランクを押しながら、ブレーキ調整ねじを回す。

③走行してブレーキの利きを確認する。

④ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。

ロックナット
締付トルク
(1~2)N・m
{(10~20)kgf・cm}



お願い

●確実な制動力を得るために、通常約 1~2 年に 1 回程度はローラーブレーキ専用グリスを補給してください。

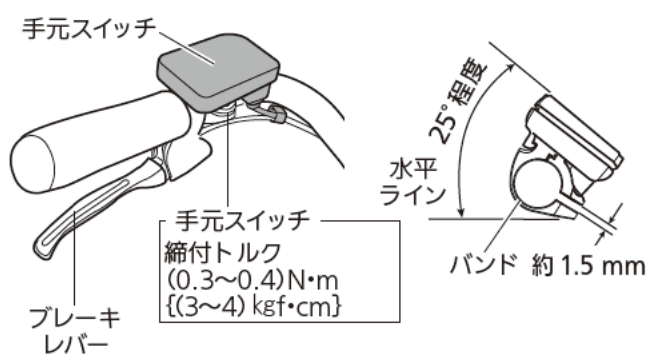
●ブレーキをかけた場合、音鳴りがしたり、ブレーキの利きが異常に強すぎたりしたとき、ブレーキグリスの不足が考えられます。ローラーブレーキ専用グリスを補給してください。

■手元スイッチの角度調整

○手元スイッチはブレーキレバー側に寄せ、運転者の方に向けて組み付けてください。また、バンドの隙間が約 1.5 mm になるように締め付けてください。

ご注意

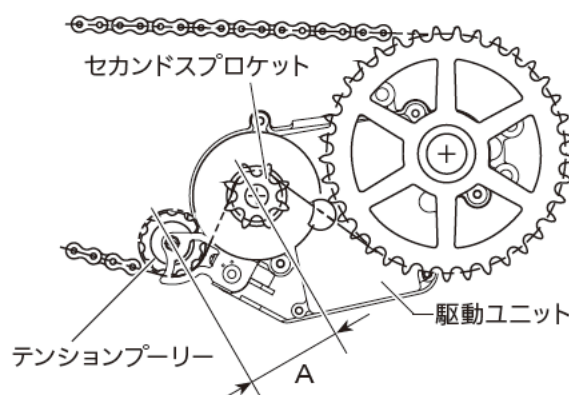
●手元スイッチの取り付けねじは締めすぎると、変形・外観不良の原因になります。特に、電動ドライバーで締め付けを行う場合、設定トルクによっては、ナットが共回りしてしまうことがありますので、十分注意してください。



■チェーンテンション(張り)の調整

○出荷時、チェーンの張りは調整済みです。(A 寸法: 60 mm ~ 70 mm)

○メンテナンス時(チェーンが伸びた状態)にチェーンの張りをチェーン引きにて調整する場合、A 寸法が 65 mm ± 3 mm が適正寸法です。適正寸法を守らないと、音鳴り、チェーン飛びやチェーン外れの原因になります。



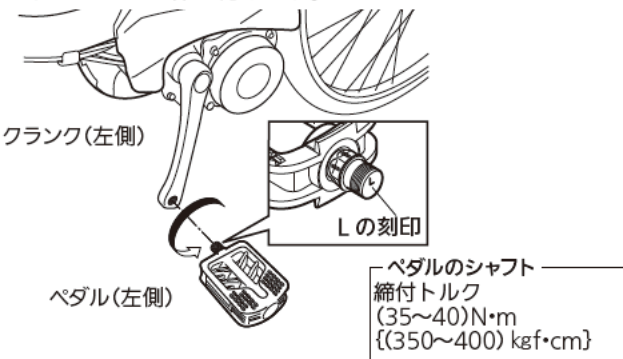
■ペダルの組み付け

※ペダルは左右でねじ方向が違います。右ペダルは右ねじ、左ペダルは左ねじです。

①クランク(右側)にペダル(R)のシャフトを時計方向に回し、ペダルレンチで締め付けます。



②クランク(左側)にペダル(L)のシャフトを反時計方向に回し、ペダルレンチで締め付けます。



※走行時のクランク回転方向が、ペダル締め付け方向です。

■チャイルドシート取り付けについて

この警告内容は、必ずお客様にお伝えください。

○クラス 27 のリヤキャリア(後荷台)装着車は、チャイルドシートの質量と幼児の体重を合わせて、27 kg まで乗せることができます。ただし、チャイルドシートの取扱説明書に体重制限がある場合は、チャイルドシートの取扱説明書に従ってください。



警告

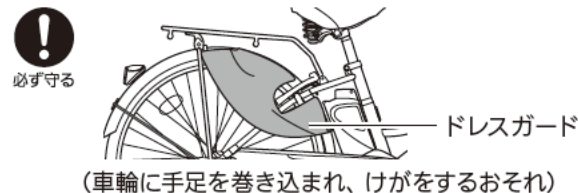
■1本スタンド装着車、質量別クラス18以下のリヤキャリア装着車にはチャイルドシートを取り付けない

禁止 (バランスを崩して転倒によるけがのおそれ)

■リヤキャリア取り付け式チャイルドシートを取り付けるときは乗車・運転に支障の無い範囲でできる限り前寄りに取り付ける

必ず守る (幼児を乗せた状態での押し歩き時、スタンド操作時などでは重心が後寄りとなり、後方へ転倒して幼児がけがをするおそれがあります。また、前寄りに付けすぎると、ペダリング時にチャイルドシートに足が当たり、バランスを崩して転倒によるけがのおそれがあります。) ⇒ハイバック式チャイルドシートでは通常タイプに比べ、特に重心が後寄りになりますので、ご注意ください。

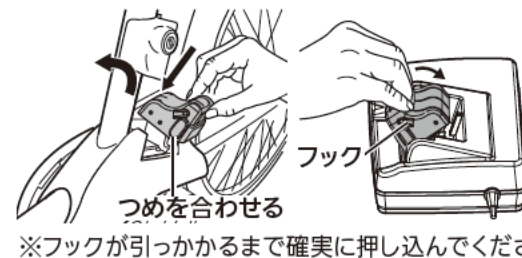
■リヤキャリア取り付け式チャイルドシートを取り付けるときはドレスガードも取り付ける(取り付けがあるか確認する)



端子カバーの使いかた お客様にお伝えください。

お願い

●長期間、自転車からバッテリーを取り外したままにする場合や充電器を使用にならないときは、汚れやほこりが付かないように、端子カバー(オプション品)を充電器の充電端子部にかぶせておくことをお勧めします。



■未組み付け部品明細表

チェック	部品名	個数
	ハンドルバー・ハンドルステム	1セット
	ステムキャップ(ハンドルステム用)	1
	手元スイッチ(位置調整が必要)	1
	ペル(位置調整が必要)	1
	ペダル	1セット

上記部品は梱包のために仮組み付けしている場合もありますので、取り付け状態や締め付けを必ず確認、調整してください。

お願い

●保証書に必要事項をご記入いただき、「取扱説明書」とともに必ずお客様にお渡しください。(キーの番号は保証書に印字されています)
●防犯登録が義務化されていることをご説明いただき、登録を行ってください。
●組み立て後、バッテリーを満充電してください。3か月以上の長期保存の場合、およびお客様に商品をお渡す際にも、満充電をしてお渡しください。
●組み立ての済んだ自転車は取扱説明書裏表紙の「点検・整備チェックリスト」にてチェックを行い、必ず実走によるブレーキテストを実施の上、お客様にお渡しください。 ※点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。

パナソニック サイクルテック株式会社

〒582-8501 大阪府柏原市片山町13番13号

© Panasonic Cycle Technology Co., Ltd. 2017

NYK2144 G1217-0